

# 2017年3月期 決算説明資料

2017年4月27日  
神奈川中央交通株式会社



## 一般旅客自動車運送事業

乗合業においては、10月に平塚駅北口～ららぽーと湘南平塚循環線、2月には中山駅～武蔵中山台循環線の運行を開始し、利用も順調に推移しました。また、3月に町田・多摩営業所管内の乗降方法を「中乗り・前降り」方式に変更し、予定していた全てのエリアで導入が完了したほか、藤沢市内のバス停（2ヶ所）において、駅や主要ターミナル等以外では当社初となるバス運行情報案内表示機の運用を開始し、利便性の向上を図りました。さらに、藤沢駅・辻堂駅・本厚木駅～富士急ハイランド・河口湖駅線および町田駅・橋本駅～富士急ハイランド・河口湖駅線の運行が通期寄与したことに加え、法人契約に基づく学生輸送を新規に開始したことなどにより増収となりました。なお、当社および連結子会社5社で運営していた乗合バス事業を、1月1日に事業環境に応じたエリア特性を考慮して3社体制に再編しました。

貸切業においては神奈中観光㈱にて、旅行会社との新規契約に伴い増車を行うとともに、稼働が増加したことにより増収となりました。

乗用業においては、6月に神奈中サガミタクシー㈱が、茅ヶ崎地区にて女性乗務員によるカラフルなタクシー「Candy Cab」の運行を開始し新たなお客様の獲得に努めました。また、女性乗務員が働きやすい環境づくりが認められ、国土交通省より「女性ドライバー応援企業」に認定されました。さらに、高齢者や子育て世代の多様化するニーズに対応するため、前期より開始した外出時の付添いや観光案内などを行う「さぼーとタクシー」のサービスの利用が順調に推移しましたが、乗務員不足に伴う稼働減などにより減収となりました。

以上の結果、一般旅客自動車運送事業全体の売上高は595億5千9百万円（前期比0.1%増）となりましたが、車両の減価償却費の増加などにより営業利益は30億5千9百万円（前期比3.4%減）となりました。



10月に運行開始した平塚駅北口～ららぽーと湘南平塚循環線



旅行会社との新規契約による専用車両

## 不動産事業

分譲業においては藤沢市にて、宅地4区画と建売6戸に加え、伊藤忠都市開発(株)と共同事業で行っている新築分譲マンション「クレヴィア戸塚」(総戸数86戸)の販売が順調に推移したことにより増収となりました。また、小田急不動産(株)およびセコムホームライフ(株)と共同事業で行っている「リーフィアレジデンス伊勢原」(総戸数147戸)の販売を進めるとともに、新たに藤沢市羽鳥において大和ハウス工業(株)および(株)長谷工コーポレーションと大規模マンション共同事業「プレミスト湘南辻堂」(総戸数914戸)の販売に向け、宣伝活動を開始しました。

賃貸業においては、7月に賃貸施設「スーパーホテル戸塚駅東口」が開業し、新たに賃貸を開始したほか、前期より開始した岩手県金ケ崎町の太陽光発電所の売電収入が通期寄与しましたが、神中興業(株)において賃貸土地の解約があったことなどにより減収となりました。

以上の結果、不動産事業全体の売上高は61億4千2百万円(前期比18.6%増)、営業利益は19億6千4百万円(前期比9.4%増)となりました。



建売分譲(藤沢市遠藤)



整備ラインを増強した神奈川三菱ふそう自動車販売(株)戸塚支店

## 自動車販売事業

自動車販売事業においては神奈川三菱ふそう自動車販売(株)にて、営業活動を強化したことなどによりトラックの販売台数が大幅に増加しました。なお、9月には戸塚支店において、整備ラインを従来の整備用7ストールに加え、検査・洗車用含めた14ストールに増強するとともに、最新式の整備機器を装備した整備工場が完成し、全面リニューアルが完了しました。また、神奈中相模ヤナセ(株)にて、メルセデス・ベンツ「Cクラス」およびモデルチェンジを行った「Eクラス」など新車の販売が順調に推移するとともに、メーカー認定中古車の在庫を豊富に取り揃えお客様の多様なニーズにお応えしたことにより、中古車の販売も好調に推移しました。

以上の結果、自動車販売事業全体の売上高は311億7千4百万円(前期比5.9%増)となりましたが、競合他社との競争激化による値引き販売の影響により粗利が減少し、営業利益は1億4千7百万円(前期比69.5%減)となりました。

## その他の事業

情報サービス業においては㈱神奈中情報システムにて、グループ内企業向けの経理システムの代替に加え、グループ外のバス事業者向けバスロケーションシステムやICカード後方システムなどの販売が好調に推移し増収となりました。

商用車架装業においては横浜車輛工業㈱にて、トラック全体の底堅い代替需要により、カプラ架装や自動車関連部品の販売が増加し増収となりました。

流通業においては㈱神奈中商事にて、路線バスの行先表示器の販売が増加し増収となりました。

総合ビルメンテナンス業においては横浜ビルシステム㈱にて、積極的な営業活動により金融機関の設備更新工事を受注したことに加え、大和市内の公共施設の指定管理者として業務を受託したことなどにより増収となりました。

広告業においては㈱アドベルにて、バスボディへのラッピング広告製作の販売が増加するとともに、バス車内のデジタルサイネージの導入を拡大したことにより増収となりました。

飲食・娯楽業においては、10月に「サーティワンアイスクリームららぽーと湘南平塚店」、「うまげなららぽーと湘南平塚店」を、11月には「ドトールコーヒーショップイオン茅ヶ崎中央店」および新規業態である「やきとり家すみれ溝の口店」を出店し収益の拡大を図りました。また、既存店舗をリニューアルするなどお客様満足度の向上に努めましたが、不採算店舗の閉店などにより減収となりました。

ホテル業においては、宿泊部門で訪日外国人旅行者が減少するなか、客室をリニューアルし稼働率が上昇しましたが、料飲部門でピザ店におけるデリバリーの収入が減少したことなどにより減収となりました。

以上の結果、その他の事業全体の売上高は303億7千9百万円（前期比6.0%増）、営業利益は17億6千5百万円（前期比27.0%増）となりました。



ドトールコーヒーショップイオン茅ヶ崎中央店

# 連結損益計算書 (1)

単位:百万円

	2017年3月期	2016年3月期	増減	摘要	2017年3月期 業績予想 (2016年4月公表値)	増減
売上高	115,525	111,543	3,982 (3.6%)	自動車販売事業 +1,728 その他の事業 +1,726	112,700	2,825 (2.5%)
営業利益	6,810	6,815	△ 5 (△ 0.1%)	自動車販売事業 △336 その他の事業 +375	6,210	600 (9.7%)
経常利益	6,713	6,425	287 (4.5%)	営業外費用 △285	5,920	793 (13.4%)
特別利益	566	941	△ 374 (△ 39.8%)	固定資産売却益 △288 受取補償金 △212	500	66 (13.4%)
特別損失	1,196	1,627	△ 430 (△ 26.5%)	減損損失 △756 土壌改良費用 +259	1,070	126 (11.9%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,977	3,131	845 (27.0%)		3,300	677 (20.5%)
1株当たり 当期純利益	64.50円	50.78円	13.72円		53.51円	10.99円

減価償却費	5,834	5,479	354			
EBITDA	12,644	12,294	349	※営業利益+減価償却費		
資本的支出	8,961	8,868	93			

## 売上高

自動車販売事業は、輸入車販売においてモデルチェンジなどにより新車の販売が順調に推移するとともに、中古車の販売も好調に推移し増収。

その他の事業は、情報サービス業においてシステム開発が好調に推移するとともに、商用車架装業もトラック全体の底堅い代替需要により、カプラ架装や自動車関連部品の販売が増加し増収。

## 営業利益

自動車販売事業の商用車販売における競合他社との競争激化による値引き販売の影響などにより減益。

## 経常利益

金融費用や持分法投資損失の減少により増益。

## 特別利益

1	固定資産売却益	241百万円	車両売却益
2	補助金	237百万円	乗合バス購入補助金等

## 特別損失

1	固定資産除却損	406百万円	バス営業所建替工事に伴う除却損等
2	固定資産圧縮損	222百万円	補助金による圧縮損
3	減損損失	276百万円	店舗・商業施設他（5件）
4	土壌改良費用	259百万円	旧バス操車所用地の土壌改良費用

# 連結貸借対照表

単位:百万円

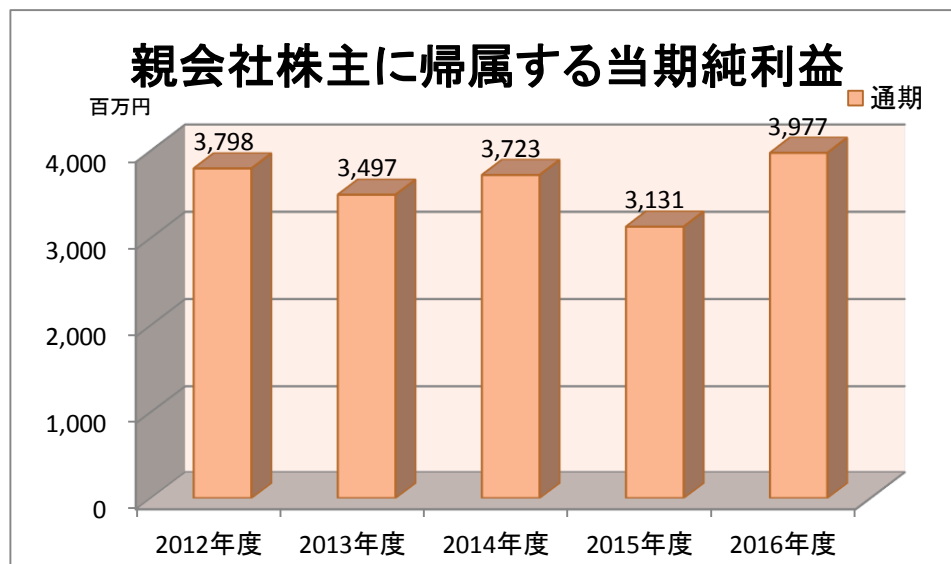
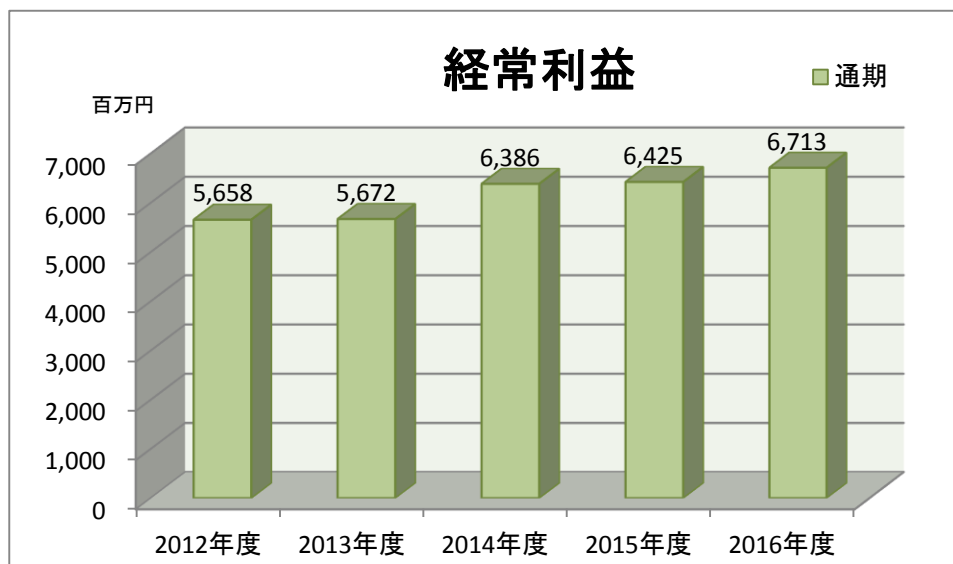
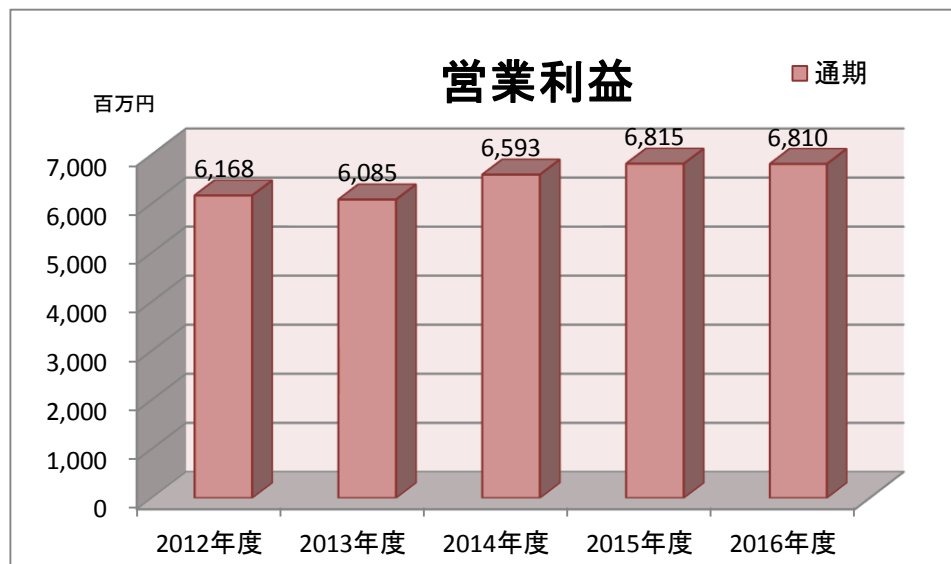
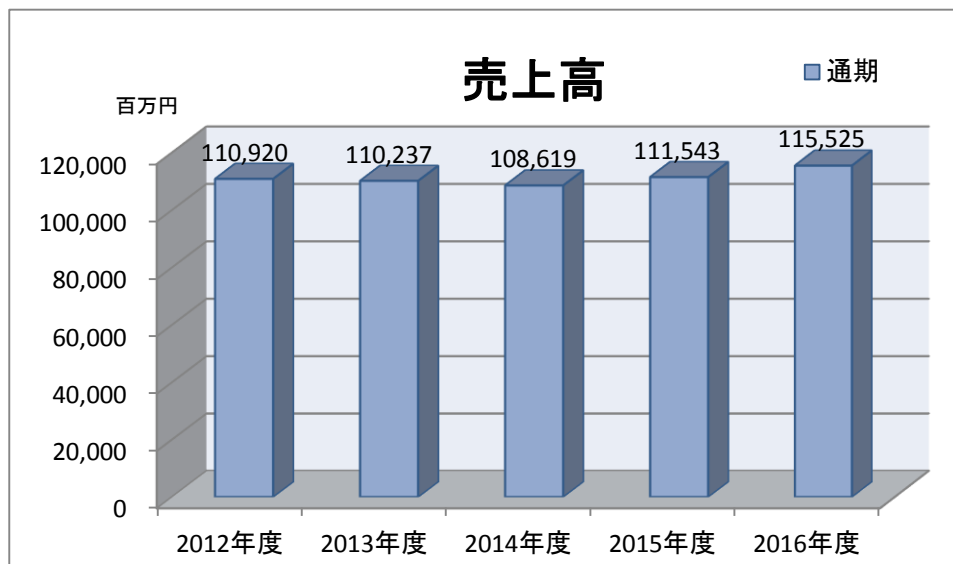
	2017年3月期	2016年3月期	増減	摘要
流動資産	22,461	19,347	3,114 (16.1%)	商品及び製品 +2,293
固定資産	126,496	125,450	1,045 (0.8%)	建物及び構築物 +2,585 投資有価証券 △1,080
資産合計	148,957	144,798	4,159 (2.9%)	
流動負債	42,166	40,909	1,256 (3.1%)	支払手形及び買掛金 +1,222
固定負債	55,755	56,066	△ 311 (△ 0.6%)	社債 +5,000 長期借入金 △4,724、長期預り保証金△469
負債合計	97,921	96,975	945 (1.0%)	
純資産合計	51,036	47,822	3,213 (6.7%)	利益剰余金 +3,545
負債純資産合計	148,957	144,798	4,159 (2.9%)	

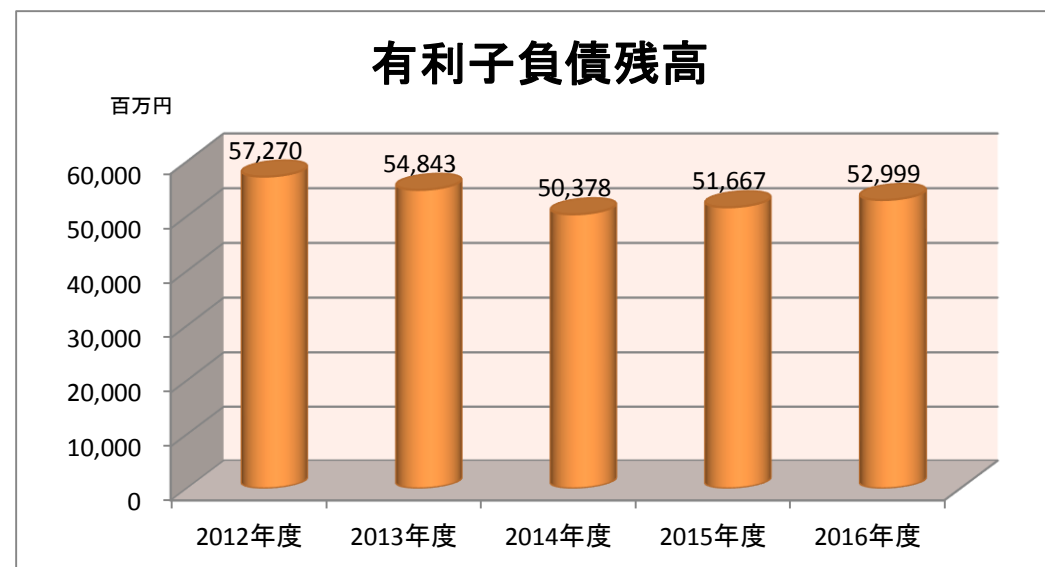
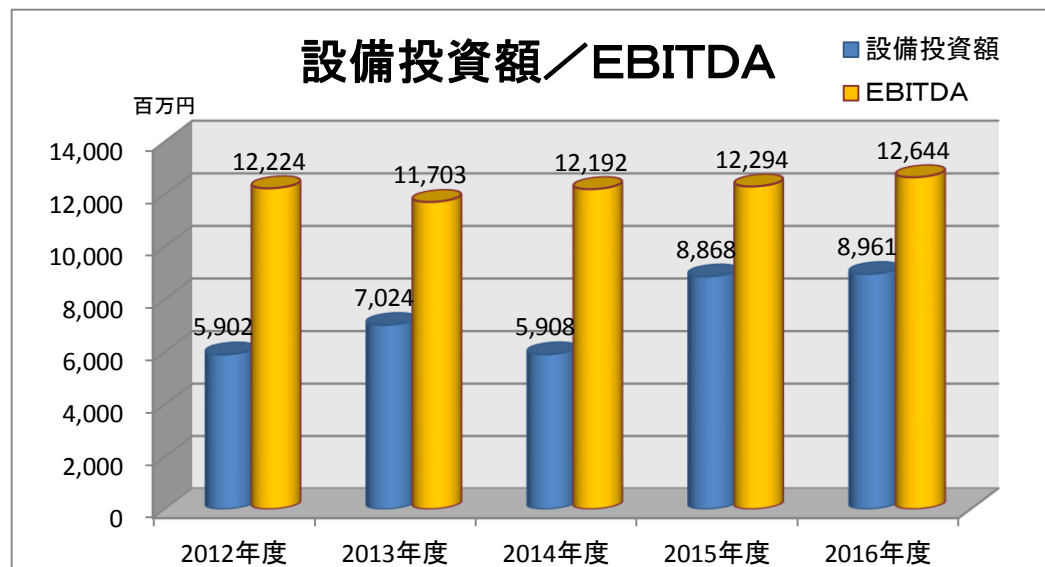
1株当たり純資産額	763.02円	714.04円	48.98円	
自己資本比率	31.6%	30.4%	1.2P	
有利子負債残高	52,999	51,667	1,332	

単位:百万円

	2017年3月期	2016年3月期	増減	摘要
営業キャッシュ・フロー	7,894	6,750	1,144 (17.0%)	未払消費税等の増減額 +1,617
投資キャッシュ・フロー	△ 7,776	△ 7,222	△ 554 (△ 7.7%)	固定資産の取得による支出 △1,760 短期貸付による支出 +905
財務キャッシュ・フロー	57	206	△ 148 (△ 72.0%)	配当金の支払額 △122
現金及び現金同等物の増減額	175	△ 265	441 (166.1%)	
現金及び現金同等物の期末残高	2,290	2,114	175 (8.3%)	









単位：百万円

	2017年3月期	2016年3月期	増減	摘要	2017年3月期 業績予想 (2016年4月公表値)	増減
売上高	59,559	59,479	79 (0.1%)	乗合業 +351 貸切業 +92 乗用業 △364	60,090	△ 530 (△ 0.9%)
営業利益	3,059	3,168	△ 109 (△ 3.4%)	乗合業 △5 貸切業 +14 乗用業 △117	2,430	629 (25.9%)
資産	58,227	56,122	2,105			
減価償却費	4,010	3,800	210			
減損損失	3	181	△ 178			
資本的支出	6,943	5,326	1,616			

【対前年】

乗合業は、輸送人員が増加し増収となったものの、車両償却費の増加などにより減益。  
 貸切業は、増車による稼働や一車当たり収入が増加したことなどにより増収増益。  
 乗用業は、乗務員不足による稼働減などにより減収減益。

※参考 乗合業輸送人員

単位：百万人

	2017年3月期	2016年3月期	増減率	摘要
定期外	182	182	△ 0.1%	
定期	63	61	2.6%	
合計	245	244	0.5%	

単位：百万円

	2017年3月期	2016年3月期	増減	摘要	2017年3月期 業績予想 (2016年4月公表値)	増減
売上高	6,142	5,176	965 (18.6%)	分譲業 +977 賃貸業 △11	6,300	△ 157 (△ 2.5%)
営業利益	1,964	1,795	168 (9.4%)	分譲業 +161 賃貸業 +6	1,990	△ 25 (△ 1.3%)
資産	42,890	40,874	2,015			
減価償却費	991	884	107			
減損損失	-	388	△ 388			
資本的支出	496	2,222	△ 1,725			

## 【対前年】

分譲業においては、新規分譲マンション「クレヴィア戸塚」の販売が順調に推移したことなどにより増収増益。  
賃貸業においては、前期に行った「本厚木駅前ビル」や「相模原中央ビル」のリニューアル工事に伴う修繕費が減少したことなどにより減収増益。

単位：百万円

	2017年3月期	2016年3月期	増減	摘要	2017年3月期 業績予想 (2016年4月公表値)	増減
売上高	31,174	29,446	1,728 (5.9%)	商用車販売 +385 輸入車販売 +1,343	29,410	1,764 (6.0%)
営業利益	147	484	△ 336 (△ 69.5%)	商用車販売 △427 輸入車販売 +91	530	△ 382 (△ 72.1%)
資産	17,380	16,445	935			
減価償却費	289	254	35			
減損損失	-	-	-			
資本的支出	1,168	634	533			

## 【対前年】

商用車販売において、営業活動の強化などによりトラックの販売台数が増加し増収となったものの、競合他社との競争激化による値引き販売の影響に伴う粗利減などにより減益。

輸入車販売においては、モデルチェンジなどにより新車の販売が順調に推移するとともに、中古車販売も好調に推移し増収増益。

※参考 新車販売台数

単位：台

	2017年3月期	2016年3月期	増減
トラック	2,244	2,055	189
バス	258	277	△ 19
輸入車	566	457	109

単位：百万円

	2017年3月期	2016年3月期	増減	摘要	2017年3月期 業績予想 (2016年4月公表値)	増減
売上高	30,379	28,653	1,726 (6.0%)	情報サービス業 +584 商用車架装業 +480	29,040	1,339 (4.6%)
営業利益	1,765	1,390	375 (27.0%)	情報サービス業 +120 商用車架装業 +140	1,310	455 (34.8%)
資産	32,183	32,401	△ 218			
減価償却費	542	539	2			
減損損失	272	461	△ 188			
資本的支出	571	772	△ 201			

## 【対前年】

情報サービス業においてシステム開発が好調に推移するとともに、商用車架装業もトラック全体の底堅い代替需要により、カプラ架装や自動車関連部品の販売が増加し増収増益。

## 2018年3月期の業績予想



単位:百万円

	2018年3月期 業績予想	2017年3月期	増減	摘要
売上高	115,600	115,525	74 (0.1%)	自動車販売事業 +995、不動産事業 +847 一般旅客自動車運送事業 +840、セグメント間消去等 △2,858
営業利益	6,850	6,810	39 (0.6%)	自動車販売事業 +222 その他の事業 △155
経常利益	6,740	6,713	26 (0.4%)	
特別利益	740	566	173 (30.6%)	補助金 +173
特別損失	980	1,196	△ 216 (△ 18.1%)	減損損失の減 △276
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,120	3,977	142 (3.6%)	
1株当たり 当期純利益	66.81円	64.50円	2.31円	
減価償却費	6,630	5,834	795	
資本的支出	11,140	8,961	2,178	

## 【対前年】

一般旅客自動車運送事業において川崎市交通局井田営業所の管理受託を開始したことや、不動産事業におけるマンション分譲の実施などにより増収増益。

# セグメント別業績予想（一般旅客自動車運送事業）

単位：百万円

	2018年3月期 業績予想	2017年3月期	増減	摘要
売上高	60,400	59,559	840 (1.4%)	乗合業 +381 貸切業 +206 乗用業 +257
営業利益	2,910	3,059	△ 149 (△ 4.9%)	乗合業 △306 貸切業 +9 乗用業 +150
減価償却費	4,770	4,010	759	
資本的支出	8,890	6,943	1,946	

## 【対前年】

売上高は、乗合業において川崎市交通局井田営業所の管理受託を開始したことや、乗用業における配車効率を高めるシステムの導入などにより増収。

営業利益は、営業用車両の代替による減価償却費の増加などにより減益。

## ※参考 乗合業輸送人員計画

単位：百万人

	2018年3月期 業績予想	2017年3月期	増減率	摘要
定期外	182	182	△ 0.2 %	
定期	63	63	△ 0.3 %	
合計	245	245	△ 0.2 %	

# セグメント別業績予想（不動産事業）

単位：百万円

	2018年3月期 業績予想	2017年3月期	増減	摘要
売上高	6,990	6,142	847 (13.8%)	分譲業 +698 賃貸業 +156
営業利益	2,100	1,964	135 (6.9%)	分譲業 +18 賃貸業 +126
減価償却費	970	991	△ 21	
資本的支出	1,340	496	843	

## 【対前年】

分譲業は、マンション分譲「リーフィアレジデンス伊勢原」の実施などにより増収増益。

賃貸業は、前年度に賃貸を開始した「スーパーホテル戸塚駅東口」や、リニューアル後の「相模原中央ビル」の通期寄与などにより増収増益。

# セグメント別業績予想（自動車販売事業）

単位：百万円

	2018年3月期 業績予想	2017年3月期	増減	摘要
売上高	32,170	31,174	995 (3.2%)	商用車販売 +1,429 輸入車販売 △424
営業利益	370	147	222 (150.5%)	商用車販売 +267 輸入車販売 △43
減価償却費	290	289	0	
資本的支出	460	1,168	△ 708	

## 【対前年】

商用車販売は、トラック、バスともに販売台数の増加を織り込み増収増益。  
輸入車販売は、新車販売台数の減少を織り込み減収減益。

## ※参考 新車販売台数

単位：台

	2018年3月期 業績予想	2017年3月期	増減
トラック	2,327	2,244	83
バス	290	258	32
輸入車	525	566	△ 41

# セグメント別業績予想（その他の事業）

単位：百万円

	2018年3月期 業績予想	2017年3月期	増減	摘要
売上高	30,630	30,379	250 (0.8%)	流通業 △327 情報サービス業 +296、一般飲食業 +210
営業利益	1,610	1,765	△ 155 (△ 8.8%)	流通業 △86
減価償却費	590	542	47	
資本的支出	820	571	248	

## 【対前年】

売上高は、流通業における路線バスの行先表示器の販売減を織り込むものの、情報サービス業におけるバスロケーションシステムの販売増や、一般飲食業における新規出店などにより増収。

営業利益は、流通業の減収の影響などにより減益。

# (参考) 個別業績予想

単位:百万円

	2018年3月期 業績予想	2017年3月期	増減	摘要
売上高	54,800	53,680	1,119 (2.1%)	分譲売上の増
営業利益	3,760	3,981	△ 221 (△ 5.6%)	減価償却費の増
経常利益	3,850	4,035	△ 185 (△ 4.6%)	
特別利益	750	862	△ 112 (△ 13.0%)	抱合せ株式消滅差益の減
特別損失	440	1,031	△ 591 (△ 57.3%)	固定資産除却損の減
当期純利益	2,960	2,814	145 (5.2%)	
1株当たり 当期純利益	48.09円	45.64円	2.45円	

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【問い合わせ先】

神奈川中央交通株式会社

総務部

TEL 0463-22-8800